

体験交流型観光の推進で地域をさらに活性化させる取り組みを行う

～明日香ニューツーリズム協議会：奈良県明日香村～

奈良県を代表する観光地のひとつである明日香村は、棚田オーナー制度など、第一次産業を主体とする観光の振興で一定の成果をあげてきたが、近年は観光客の減少傾向が続いている。そういったなか、新たな観光分野において観光客を取り込もうと、明日香村地域振興室の支援を受けて、地元の工務店や商工会、観光開発公社そして奈良県商工会連合会などが結束して「明日香ニューツーリズム協議会」を立ち上げた。「教育旅行」をメインターゲットとし、農家民泊体験をはじめとする6分野において体験観光のプログラムを作成。「飛鳥（明日香）」というブランドを武器にした新たな地域活性化の取り組みが始まろうとしている。

明日香村の沿革

奈良県高市郡明日香村は、奈良盆地の東南に位置する人口6,126人、世帯数2,150世帯（平成23年2月1日現在）の村で、面積24.08km²の大部分を農地と山林が占めている。

我が国の中央律令国家の体制が初めて形成された地で、村内には飛鳥時代の古墳や史跡など数多くの歴史的遺産が点在し、明日香らしい歴史的風土を形成していることから、「日本人の心のふるさと」とも称されている。また、昭和41年7月に「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（古都保存法）」に指定された8市1町1村の中で唯一、村全体が対象地域となっていることは特徴的である。

明日香村の発展へ

明日香村は年間約80万人（奈良県観光客動態調査報告書：平成21年）の観光客が訪れる奈良県有数の観光地のひとつであるが、近年観光客は減少傾向にあるうえ、日帰りの観光客が中心である。

明日香村では従来から第一次産業を重視し、明日香村の歴史的な景観を守りながら観光事業を展開している。平成8年に「棚田オーナー制度」を発足させ、オーナー制度を通じて都会人と地元人との交流を活発に行い、地域活性化に一定の成果をあげてきた。

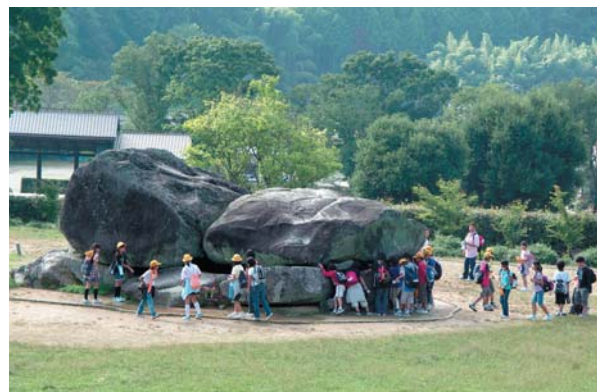
今後、村のさらなる発展のためには、地域内で消費される額をいかに増やして経済効果を高める

か、すなわち、「交流時間を長くするための仕掛けをいかにして作っていくか」というビジネスモデルの構築が喫緊の課題となっていた。

そこで取り組んだのが第一次産業を主体とする体験交流型の観光であった。中心となって活動してきたのは、株式会社島田工務店の島田昌則社長である。

島田社長は、地域の活性化には、地域資源である「飛鳥の棚田」や神奈備^{かんねび}の郷（奥明日香地区）の伝統的生活文化、そして村内各地区の暮らしの知恵やものづくりの技とその特長を生かした、従来にない「体験交流型観光」と「田舎暮らし」の魅力が付加した新しいサービスの開発が重要であると考えた。

また、提供するサービスについては、最終的には参加者の宿泊や交通・飲食のほか、旅行に必要な情報の提供から予約管理、手配調整そして旅行



明日香村を代表する観光スポット「石舞台古墳」
（提供：明日香路写真コンクール実行委員会）

後のフォローやリピーターの管理までを明日香ニューツーリズム協議会が一貫業務として行い、株式会社島田工務店がその一部を請負う予定である。そのため協議会および島田工務店は旅行業を行う予定で、その登録には「旅行業務取扱管理者」が必要なため、資格の取得に向けての準備も進めている。

明日香ニューツーリズム協議会発足までの経緯と背景

平成 22 年度、奈良県商工会連合会および財団法人奈良県中小企業支援センターは、明日香村商工会と連携し、「なら観光ビジネスカレッジ」 in 明日香を開催した。

なら観光ビジネスカレッジは、「明日香村の観光ビジョンをビジネスとして具現化すること」を村、事業者、商工会がそれぞれの立場から検討し、村全体としての活性化を目指すものである。同カレッジでは体験型観光をテーマとしており、受講者は明日香村の地域資源を活用した体験交流型旅行商品の開発や情報の発信方法などについて学習した。



なら観光ビジネスカレッジの一風景

その成果を受けて平成 23 年 5 月、明日香村地域振興室の支援のもと、明日香村商工会が中心となり、財団法人明日香村観光開発公社、財団法人明日香村地域振興公社、飛鳥京観光協会、奈良県商工会連合会の各法人・団体にその団体に所属し

ている事業者が加わって「明日香ニューツーリズム協議会」が発足した。

同協議会では、教育旅行を推進ターゲットのひとつと考え、農家民泊体験など明日香村ならではの体験プログラムを作成。教育旅行の誘致に向けて、全国の旅行会社や小中高校へのアプローチを進めている。現在受入側の準備も整い、受入農家約 50 軒、受入可能人数は約 200 名にまで達している。

また、引率先生や添乗員など関係者には村内の民宿、祝戸荘^{いわいどそう}や古民家を改築した森羅塾^{しんらじゅく}といった宿泊施設も完備している。

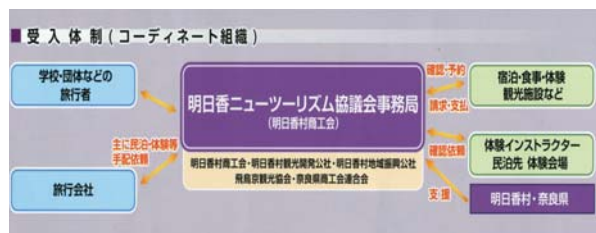
体験交流型観光の本格的な実施は平成 24 年度からの予定だが、その先駆けとして本年 9 月に東京都内の中学校からの教育旅行受入が決定している。

当面は教育旅行が中心であるとのことだが、将来的にはインバウンドでの集客も視野に入れている。

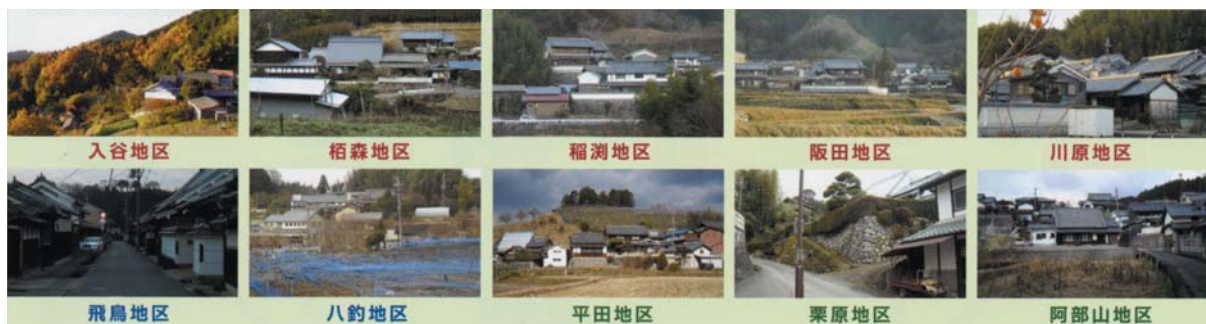
明日香ニューツーリズム協議会の重点事業

本年度において明日香ニューツーリズム協議会では次の 7 つを重点事業としている。

1. 体験プログラムおよび農村体験の創出と整備
2. 地域コーディネーターおよび体験プログラムインストラクターの養成
3. 受入体制組織（協議会）のコーディネートシステムの強化
4. 旅行会社等への営業活動の推進
5. 教育旅行、野外活動およびモニターツアーの



受入体制図 (コーディネート組織図)



農家民泊を行う農家

受入

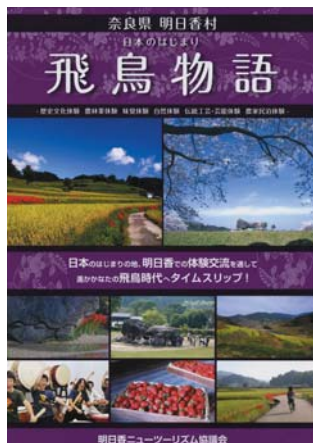
6. PR 活動等の強化と先進地視察の実施

7. インバウンドへの取り組み

協議会が取り組む主なプログラム

明日香ニューツーリズム協議会では「歴史文化体験」、「農林業体験」「味覚体験」「自然体験」「伝統工芸・芸能体験」「農家民泊体験」の6分野での体験プログラムを開発している。

以下に、体験プログラムの一部を紹介する。



協議会が提供する体験プログラムのパンフレット

■考古学体験～発掘作業のプロセスを学ぶ～

古代史の宝庫である奈良県内の考古発掘を手がけ、高松塚古墳や藤ノ木古墳の発掘などで全国に名を知られる奈良県立橿原考古学研究所。同研究所のバックヤードは、出土品の復元、図面作成や発掘現場にかかる調査技師のミーティングをおこなう心臓部である。

普段は一般公開しない橿原考古学研究所バックヤードで、発掘調査技師・スタッフ指導のもと、遺跡・古墳の発掘作業の成り立ちと発掘現場説明会や博物館での展示にいたるまでのプロセス・実作業を学び、いわゆる『ほんものの考古学』を体験することができる。(諸条件により出土品の復元作業も可。)

■歴史ガイドツアー

明日香村で生まれ育った「語り部」たちによる古代ロマン「飛鳥時代」の歴史話や遺跡、生きもの、自然など、ここで暮らし続ける村人の秘話が

聞ける体験ガイドツアーである。韓流ドラマやTVドラマの舞台になるほど、世界的にも注目度の高い棚田風景や遺跡を見ながら生のガイドの話が聞ける人気のツアーである。

【ここがポイント】

飛鳥時代の歴史は、ミステリアスでロマンスに溢れている。遺跡ひとつをとっても、その説は様々。自然に触れながら語り部ならではの口調とイワレを存分に聴き、自ら想像することで心の奥深く残る体験ができる。



菜の花が鮮やかな奥明日香
(提供：明日香路写真コンクール実行委員会)

■和太鼓“倭”演奏体験

～打楽器の起源・発祥の地～

律令国家が生まれた飛鳥時代の祀りごとに打楽器が使われたといわれている。その由縁から和太鼓「倭」は明日香村を基点に日本のみならず、世界中でその技を披露している。世界45か国で響き渡る和太鼓の技と文化を体感できるおすすめプランである。

【ここがポイント】

倭の和太鼓を通じて音楽の楽しさだけでなく、日本文化に触れ、団結力や精神力を学ぶ。身体で感じ、人との輪を大切にする調和の心を養う。全身で和太鼓のリズムを感じると共に、周りとの調和を意識する。



エネルギーあふれる和太鼓演奏体験

■食す宝石、あすかるびー

～明日香のイチゴ農園体験～

明日香のとおき名産品である「あすかるびー」。土作りから始まり、苗の手入れ、草取りなど1年を通して大切に育てられたルビー色した美味しいイチゴがようやく実を結ぶ。青空の下で土に触れ、生育から収穫までを体験する。

【ここがポイント】

イチゴ農園の作業体験を通じ、食への感謝の心を学ぶ。また、自然の恵みの偉大さをのどかな農園から学び取れる。



特産のいちご・あすかるびー

今後に向けて

5月20日、国の文化審議会は、飛鳥川上流域の景観を「重要文化的景観」に選定するよう文部科学大臣に答申した。今回新たに選定されたのは明日香を含め5件で、トータルでは29件となる。なお、奈良県内では初めての選定である。

選定の対象となったのは、^{いなぶち}稲渕、^{かやのもり}栢森、^{にゅうだに}入谷の3地区（奥明日香）を中心とする地域。飛鳥川沿いの傾斜地に広がる棚田や、^{かや}茅と瓦ぶきの屋根を組み合わせた集落などで形成される景観が評価された。

本選定は従来から行われてきた地域での取り組みが評価された結果であると思われる。本選定により今後、地域の知名度がアップすることから、明日香ニューツーリズム協議会が行う体験型観光の推進やユネスコの世界遺産登録に向けての追い風になると思われる。

さらに、航空会社から旅行代理店に支払われる販売手数料の完全撤廃を受け、協議会では、「北海道や沖縄県への飛行機を利用した教育旅行が今後減るだろう」と予想している。このことも明日香村にとってはプラス材料と捉えている。

なお、今回の農家民泊の推進は「教育旅行」という新たな観光分野において他地域の顧客を取り込もうとするものである。したがって、今までの奈良県への観光客と競合するものではなく、そういう意味からも観光の振興策といえるであろう。

明日香ニューツーリズム協議会の取り組みはまだ始まったばかり。「今年9月の教育旅行第一弾受け入れが大きな弾みとなり、体験型観光への参加者が増えてくれば、明日香村および奈良県の地域活性化に繋がる」と協議会の主要スタッフである島田社長および明日香村商工会の下田正寿氏、奈良県商工会連合会の吉川誓二氏は大きな期待を抱いている。

「飛鳥（明日香）」というブランド武器にして始まる新たな地域活性化の動向に注目していきたい。

（丸尾 尚史）

<連絡先>

明日香ニューツーリズム協議会

（明日香村商工会内）

〒634-0112 奈良県高市郡明日香村島庄5

TEL：0744-54-2068 FAX：0744-54-4570

E-mail：asuka@kcn.jp